

経営比較分析表（令和元年度決算）

香川県 琴平町

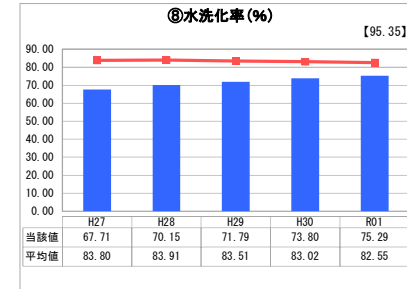
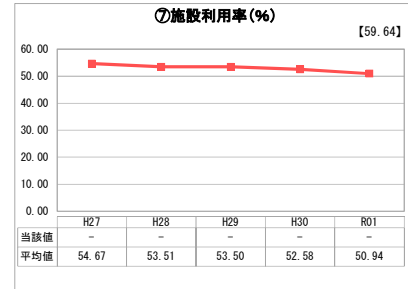
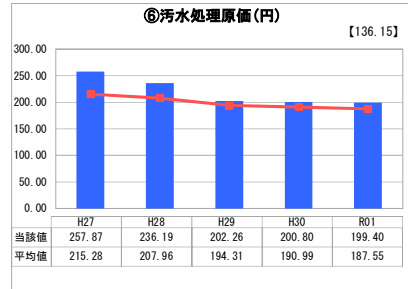
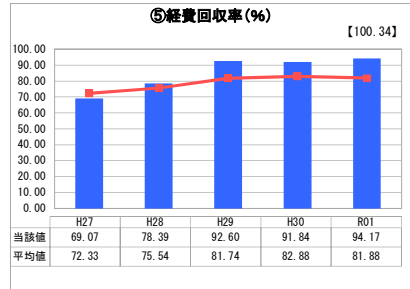
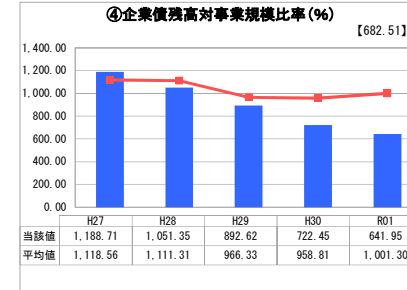
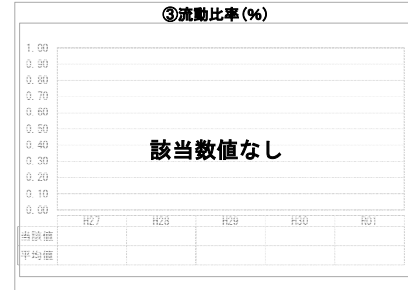
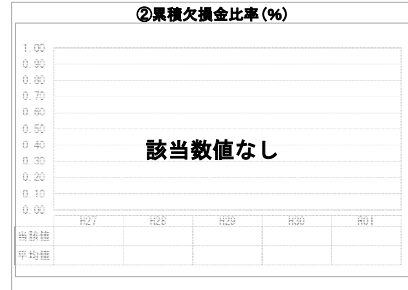
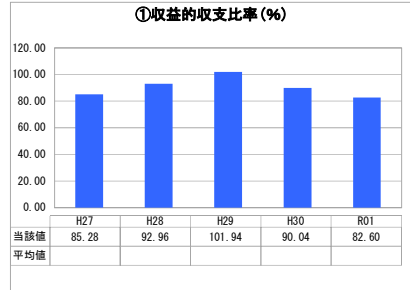
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	該当数値なし	47.35	89.91	2,860

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
9,032	8.47	1,066.35
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
4,253	1.46	2,913.01

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は、整備事業の先行投資にかかる起債償還額および利息の支払い、流域下水道の維持管理負担金等が近年の有収水量の減による使用料収入の減収と相まって、昨年に引き続き100%を下回る状況である。同様の理由により経費回収率についても類似団体より高いものの100%を下回っている状況が続いており、汚水処理原価は徐々に低下している。

近年のこの状況を改善する方策として、維持管理費の削減や、地方債償還金を資本費平準化債により平準化を行う等の経営の健全化を行ってきたところである。

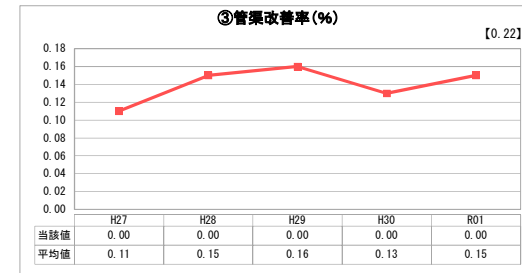
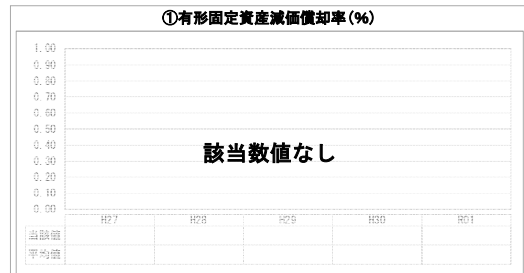
また、水洗化率については、下水道施設の有効利用の観点から、広報等により普及率の向上、類似団体平均値を下回っている水洗化率を向上すると同時に、有収水量及び使用料収入が増加するように引き続き努めていく。

なお、整備計画はすでに完了しているため、企業債務高は引き続き減少することが想定される。

2. 老朽化の状況について

管渠の整備については、昭和62年から順次整備を行い現在に至っており、令和元年度において最長で33年経過している。管渠の処分制限期間20年を経過している管渠はあるものの、標準耐用年数は50年となっているため、現時点で改築・更新作業は行わず、今後整備する固定資産台帳に基づき、ストックマネジメント計画を策定して、予防保全的な管理を効率的に行っていく予定である。

2. 老朽化の状況



全体総括

令和元年度決算及び今後の見通しについて、今年度も昨年度と同様に収支比率は100%を下回った。今後も新型コロナウイルスの感染拡大によっては、観光客の増減が大きく影響することから、収入の大きな減少も想定される。また、安定した経営を行うため、琴平町下水道経営戦略に基づき、料金改定の検討を行うほか、未収入金の解消など収入確保に努める必要がある。あわせて、本町の事業会計は負担金等の増減の影響が大きいため、その他の維持管理費の見直しも随時行ない、出来る限りの支出の抑制に努める。また、管渠の老朽化の状況によっては、更新費用の増加が見込まれることから、長寿命化計画等の策定により更新費用の平準化を図れるよう対応していくことにより、下水道事業の経営を持続可能なものとしていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。